

## 平成 19 年（2007 年）の秋田駒ヶ岳の火山活動

仙台管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

## 2007 年の活動概況

## ・地震や微動の発生状況（図 2）

3 月に体に感じない振幅の小さな火山性地震が一時的にやや増加しましたが、その後は少ない状況が続いています。東北大学の傾斜計<sup>1)</sup>等の地殻変動観測や、東北地方整備局の遠望カメラの映像には特段の変化は見られませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

## ・熱活動の状況（図 3～5、表 1）

10 月 3 日に女岳山頂部を中心に現地調査を実施しました。赤外熱映像装置<sup>2)</sup>による地表面温度分布及びサーミスタ温度計<sup>3)</sup>による噴気温度等の観測結果は、前回（2006 年 9 月）と比較して変化はなく落ち着いた状態でした。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。
- 2) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 3) サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器。

## 2007 年の噴火予報及び噴火警報の発表状況

発表日時	噴火警報または噴火予報	活動状況及び予報警報事項
12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）	火山活動はこれまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られない。

注) 平成 19 年 12 月 1 日より噴火警報及び噴火予報の発表を開始し、それに伴い従来の緊急火山情報、臨時火山情報及び火山観測情報は廃止しました。

この資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.sendai-jma.go.jp/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料は気象庁のデータの他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

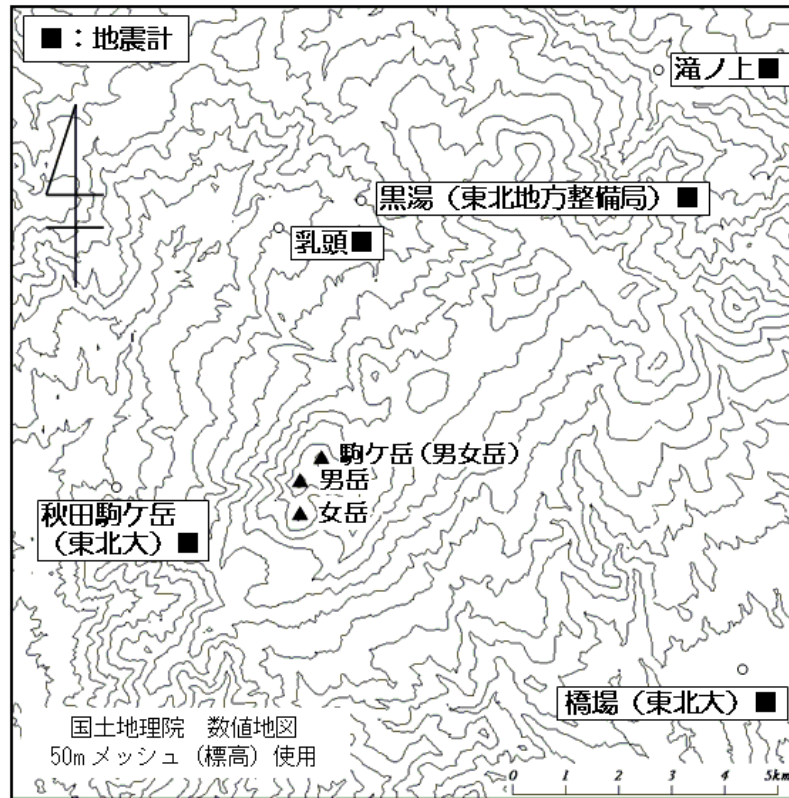


図 1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

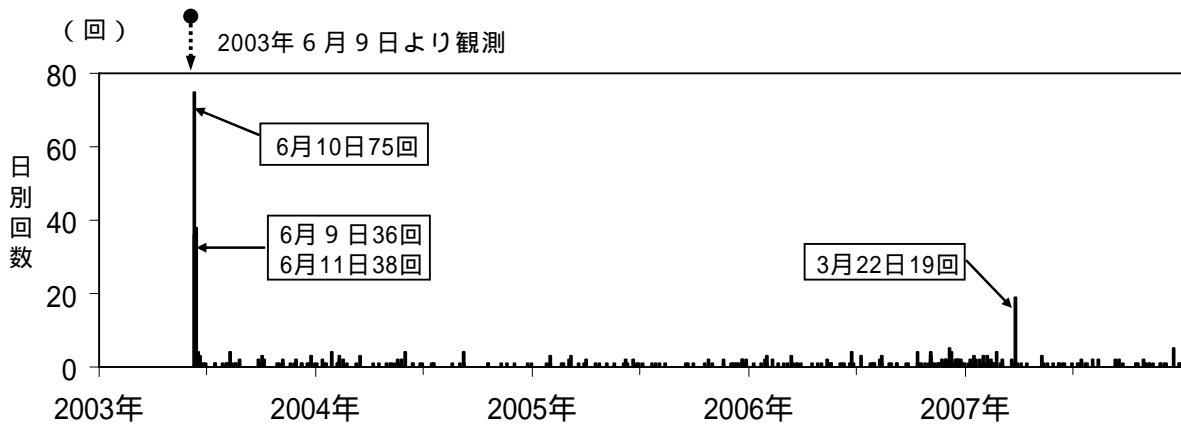


図 2 秋田駒ヶ岳 日別地震回数 (2003 年 6 月 9 日 ~ 2007 年 12 月)

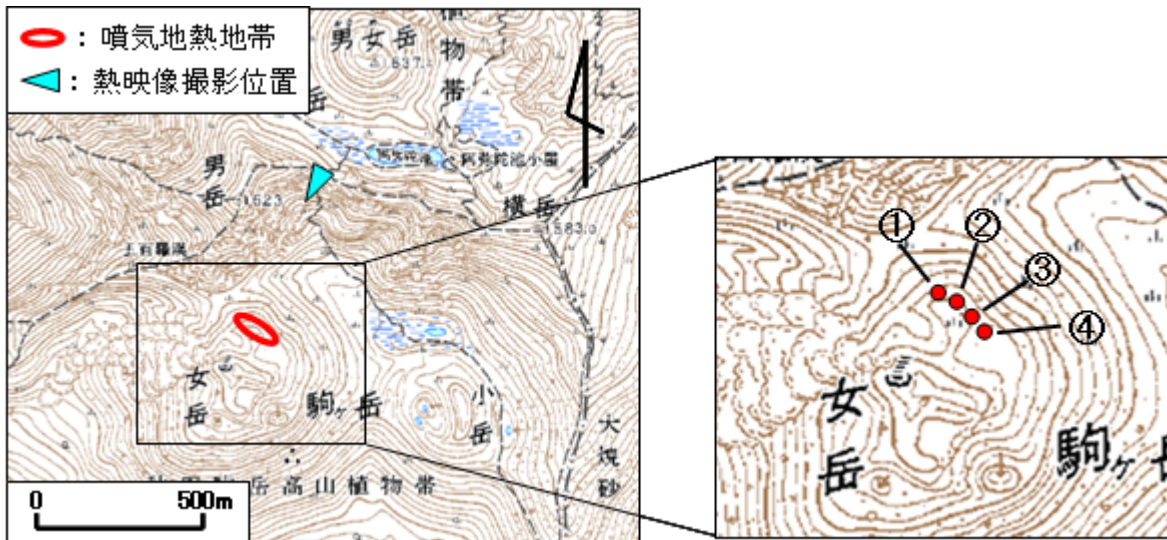


図3 秋田駒ヶ岳 地形図と赤外熱映像撮影地点、噴気温度観測地点  
右図は、女岳北部噴気地熱地帯付近を拡大したもので、①～④は噴気温度観測地点です。

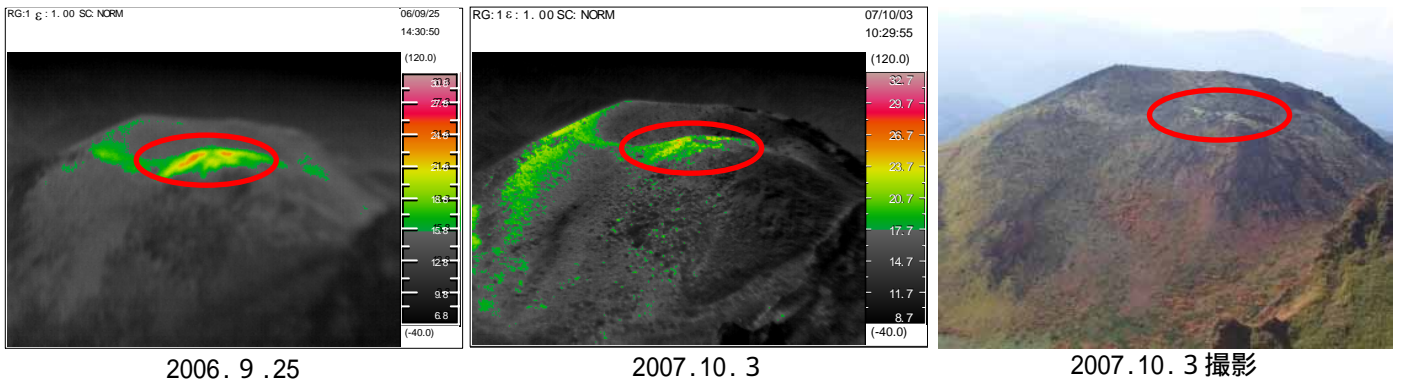


図4 秋田駒ヶ岳 女岳山頂北部噴気地熱地帯（赤丸部分）の赤外熱画像と可視画像



図5 秋田駒ヶ岳 女岳山頂北部の噴気地熱地帯

表1 秋田駒ヶ岳 女岳山頂北部の噴気温度<sup>2)</sup>

女岳山頂北部の噴気温度(深さ10～30cm)						
	2003.6	2004.9	2005.7	2006.9	2006.9	2007.10
天気・気温	晴・18	曇・13	雨・15	曇・13	晴・13	晴・13
噴気温度	86	72	85	67		45
〃		70	76	70	80	81
〃		84	81	79	76	76
〃		83	93	93	94	95

注) 番号は、女岳山頂北部の噴気地熱地帯(東西 40m、南北 20m)を4つの領域に分けて観測し、西側から ①、②、③、④ とした。